

属人化した営業体制を分析し、見積から請求に至る工程のデジタル統合を検討。二重入力を排除して省人化を図り、インフラ需要増に応える機動的な経営基盤を構築するためのDX計画を策定。

株式会社サンテクノス				<a href="https://sut.co.jp/">https://sut.co.jp/</a>	
本社所在地	松江市西嫁島1丁目2番9号	資本金	1,000万円	事業概要	建築物、道路橋などのインフラの品質管理および調査を行う非破壊検査業務
代表者名	秦 祐樹	従業員数	66名		
設立年	1980年	業種	非破壊検査・品質管理		

## 背景

- 社会インフラの老朽化に伴い調査需要が急増しているが、見積や工程管理がExcelに依存した属人運用となっており、販路拡大の妨げとなっている。
- 営業・現場・事務の間で二重・三重の転記入力が発生しており、深刻な働き手不足の中で業務効率の改善が喫緊の課題である。
- 営業活動や数字がリアルタイムに可視化されておらず、迅速な経営判断を行うためのデータ蓄積・利活用基盤が不足している。

## 計画の骨子

### 営業工程の一元管理と省人化

- ▶ 見積から請求に至るフローを統合システムへ移行し、転記作業の排除と業務の標準化を徹底することとした。
- ▶ 事務工数の大幅削減と案件管理の精度向上を実現し、営業リソースの最適化を図る計画を策定した。

### データ活用による経営の可視化

- ▶ リアルタイムに集約される案件・労務データをもとに、活動状況をモニタリングする体制を整備することとした。
- ▶ 注力エリアの選定や迅速な意思決定を可能にし、データドリブンの組織文化の定着を目指す方針を策定した。